4/2　マルコの福音書 15 章 16-39 節

「キリストの痛み」　　小池 宏明 牧師

今日は、受難週の始まり、棕櫚の主日に当たる。主イエス・キリストが受けられた苦しみや痛みは、私たち人間が経験する肉体の痛みや苦しみの延長線上にはない。人間が体験する肉体の苦しみをはるかに越えた精神的苦痛、霊的な苦難がイエス様を襲っていた。

＊多くののしりという苦痛

多くの人々がイエス様をののしった。兵士たち、道行く人々、祭司長、律法学者、そして、一緒に十字架につけられている強盗までも。人々は、神をあざけり、神を冒瀆した。あざけりの内容は、共通していて「十字架から降りてきた自分を救え」というものだった。イエス様は、犠牲を払って人々を愛しているのに拒否される苦しみを味わっておられた。

＊父からの断絶の苦痛

イエス様が十字架上で発した言葉は、34 節「**「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」訳すと「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」**」という意味であった。主イエス様は、地上に来られてから様々な苦しみを体験したが、その究極は、父なる神様との断絶である。人間は、罪を犯したがゆえに、神様との関係が切れて、神様との間に深い溝ができてしまった。罪深い人間は、それにも気づかずに、平気で、自分勝手に生きることができる。しかし、父なる神様は、愚かな罪人の私たちのために、愛する独り子イエス・キリストを十字架に送ってまでも、私たちを愛して下さった。本来は罪がないので裁かれることも死ぬ必要もないイエス様が、人間の計り知れない大きな罪を背負って父なる神様から見捨てられる痛みが、十字架における根本的な苦難である。

＊十字架のキリストを覚える理由

私たちが、キリストの受難を覚える理由の一つは、キリストのお苦しみは私のためであるからだ。私たちが決して負い切れない苦痛を主イエス様が背負って下さったので、私たちは主イエス様に真心からの感謝を捧げている。もう一つの理由は、私たちがキリストの受難に従っていくためだ。イエス様は各自「自分の十字架を負って」付いてきなさい、と招いている。それは、私が受けている現実的な苦痛をもイエス様が背負っておられるからだ。さらに、主イエス様に信頼して生きる私たちにとって、私が負っている苦難や痛みには、解放の希望がある。自分の周りにある苦しみ、悲しみ、渇きは、イエス・キリストが受け取って死に、復活の勝利を与えて下さった。主イエス様が私の苦難と一緒にいてくださる恵みを覚えよう。

日本同盟基督教団 古 河 教 会　牧　師　小池宏明
〒306―0044 茨城県古河市新久田 478-10　E-mail: kch@koga-church.org
Tel: 0280-48-3088　Fax: 0280-48-6710　HP: https://koga-church.org